

□□□□□□□□□□□□

点から面へ… 循環型社会を目指して

NPO法人TICO代表・吉田修さん

好きなものを食べて家で寝る。子どもたちは学校に通い、体調が悪くなると病院へ。日本では当たり前の光景がそうでない現実を目の当たりにすると、人はどうするだろう。

吉田さんの答えは「行動する」だった。

□ □ □ □ □

県内で外科医として働いていた30歳のとき、青年海外協力隊の一員として、マラウイに赴任したのが、ア

フリカとの最初の出会いだった。地元の病院で来る日も来る日もメスを手に手術をする日々。「やつてもやつても終わらない」。目の前の患者を救うため、がむしゃらに働いた。

任期の2年が過ぎたが、なかなか後任が決まらない。

「僕がしたことは何だったのか。数百の手術をして、確かにたくさんの命を助けた」と吉田さんは語る。

たが、それでこここの社会はよくなつたのか。結局何にもならなかつたんじやないか。無力感に包まれた。

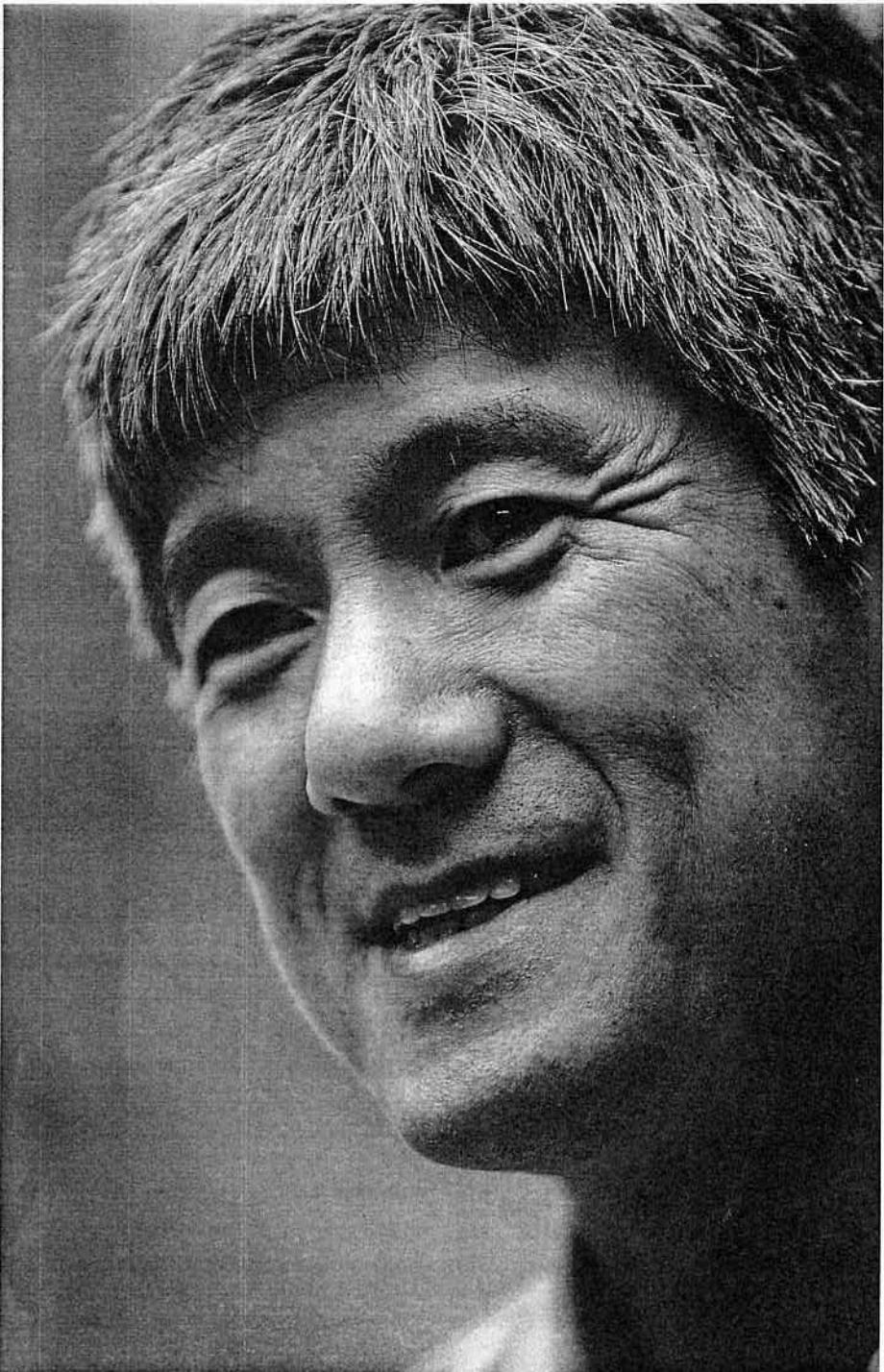
葛藤を抱きながらも感じたことは、「彼らの自立を

持続可能なものにするには、医療だけではだめ。教育や母親の支援、保健衛生などの支援が必要」ということだった。その思いは帰国後も消えることはなく、かえつて強くなつた。

「一度見てしまったものの



学校に行くよりも、まず食糧を探さなければならないアフリカの子どもたち



平成5年、徳島で国際協力を考える会「TICO」（現在のNPO法人「TICO」）を結成。自らも再びアフリカに渡り、活動を始めるとともに、徳島では、ザンビアから人を招いて現状を報告してもらう学習会やワークショップなどを開



吉田 修
Osamu Yoshida

【プロフィール】1958年生まれ、外科医。JOCV(青年海外協力隊)に参加し、1989(平成元年)4月からマラウイに派遣される。帰国後、AMDAに参加し、レバノン空爆場、イラク地震、モザンビーク遭難者民支援、ルワンダ内戦などの救援活動を行う。現在、徳島でJOCV出身者8人などと、さくら診療所とNGO法人TICO(前徳

島で国際協力を考える会)を運営する。地域医療を実践しながら、海外においてはザンビア支援を続けていた。国内では地球市民教育に積極的に取り組んでいる。目標は持続可能な循環型社会。詳しつきは本章の参考文献。

「さくら診療所」
<http://www.sakura-sakura.or.jp/>
「TICO」
<http://www.pmt.ne.jp/~zikomo/>

小規模食品加工販賣活動

ミラン野

吉田さんの目指すものは?との問い合わせで、それには、資本のことでもあり、環境のことでもある。徳島から世界を見据えて行動する吉田さん自らが使う肩書きは

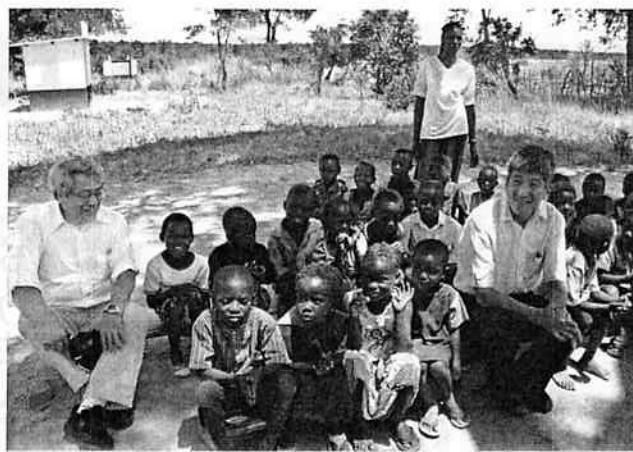
(取材・文 笠井由紀 写
真／荒井賢治、アフリカの
写真提供／TICO)



TICOって
どんな活動を
しているの?

のハマと分かって古い持続可能な社会の構築を目指す。現在は主にサンピア共和国を中心とした国際協力活動と徳島を中心とした地球市民教育活動に取り組んでいる。

— 0 . 0 0 —



2教室併用したときに教室内足りない

催、支援の輪を広げていつた。

ターをつくり、経済的自立のためリーダーとなる女性を集めて学習会や職業訓練を行った。

「ここを見てください。きれいに整備されているのが分かるでしょう。ここがコミュニケーションセンターで、僕たちの事務所はここ。他の地域と比べるとよく分かるんですけど、ずいぶんよくなつきましたよ。お母さんたちも元気ですね。支援を始めてから人口も6万人から20万人に増えました」

カの多くの国では、貧困や不格差、地球温暖化とともに大きな環境変化など、大きな問題が山積みだ。中でも、エイズは深刻で、ザンビアでもエイズで親を失った子どもたちは増える一方だという。
　　□　□　□　□　□

広い世界の中、一人の人間、小さなグループが、大きな志をもつて必死で汗を流しても、政治や世界にはびこる資本主義の前ではもどかしくなるようなことがあります。ザンビアに行ってきたんですが、餓えなどで弱っている子どもたちがいる一方で、携帯電話が普及する。そんな状況、ほんとに納得いかない」と終始穏やかだった吉田さんの口調が強くなつた。

　　もどかしくても、無力感に襲われても、それでも「何

活動を続けていけるのは、なぜか。



高麗と世話をあるが、トランプ、ガバメントの賃料90万